

Slovenia Monthly October 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年11月8日



～10月の主なポイント～

内政：大統領選の第一回投票：ロガル前外相とピルツ＝ムサル弁護士が決選投票へ
外政：ポルトロージュにおける国際捕鯨委員会総会開催
経済：日スロベニア・ビジネスフォーラムの開催
暖房価格の上限設定

政治

【内政】

●地方選への立候補者【3日、25日】

3日、与党自由運動党(GS)は、11月20日の地方選挙に向け、マリボル市長選にUKCマリボル病院元院長のフリス氏がGSの支持を受け出馬すると発表した。マリボル市長選では同氏のほか、青年党及び欧州緑の党の市議会議員ユリシッチ氏と現職アルセノビッチ市長が候補者。

25日、GSは国内212の自治体のうち51で独自の市長候補を立て、さらに2つの自治体で共同候補を立てる予定と述べた。

●リュブリャナ市長選【12日、16日、19日】

ヤンコビッチ・リュブリャナ市長は、有権者の署名を提出し、6期目を目指すことを表明した。69歳の同市長は、第一回投票で(過半数を得て自分が)当選し、市議会で同市長の政党が過半数を占めることになることと確信していると述べた。

16日、野党民主党(SDS)は、リュブリャナ市長選の候補として党員のホルヴァト・リュブリャナ市議会議員を指名した。同氏は生涯リュブリャナに在住し経済学を学び、現在リュブリャナ市議会議員を務めている。

19日、左派党のスキッチ国民議会議員はリュブリャナ市長選に出馬することを発表した。資本主義的でない都市を目指し、環境への取り組み、新しい公共賃

貸住宅、労働者の権利を主張することを約束する公約を発表した。

●国民議会が同性婚と養子縁組を成文化【4日】

国民議会は、同性婚と養子縁組を可能とする家族法の改正を賛成48票、反対29票で可決した。結婚を二人の人間の結合と定義し、結婚しているカップルと同じ条件で同性カップルに対する養子縁組を認める。憲法裁判所は同性パートナーが養子を取ることができないことを差別と見なす判決を出していた。

●3法改正に対する国民投票【6日、18日、27日】

6日、SDSは、政府法改正(省庁再編)、スロベニア国営放送(RTVスロベニア)関連法、長期ケアに関する法について、国民投票を要求するために十分な署名を集めたと発表した。国民投票の要求には4万票が必要であるが、投票が開始された9月1日以来(当館注：投票期間は10月5日まで)、政府法改正について52,280票、RTVスロベニアについて52,669票、長期ケアについて52,182票を集めた。グリムスSDS議員は、投票は追加費用を回避するために既存の選挙日に行うのが最も合理的だと述べた。既存の選挙日でない日に国民投票を行うという与党の考えについて、野党新スロベニア党(NSi)のホルヴァト議員代表は、経費は余計にかかるが選挙と国民投票を混同することは不相当であり、重要な法律

についての決断は別途行われるべきだとして同案に賛成している。同党は本件国民投票のための署名集めには加わっておらず、キャンペーンには参加しないと述べた。

18日、国民議会は、国民投票を11月27日に行うことを決定した。各委員会が提案した日程が本会議で全会一致で可決された。SDSは、地方選の第2回投票日となる12月4日に同時に国民投票を行えば費用が抑えられるとして、同日程を希望していた。法律改定が無効となるためには、有効票の過半数を獲得するだけでなく、有権者数の20%の票、すなわち約34万票を獲得する必要がある。

27日、SDSはキャンペーンを正式に開始した。

●ファオンSD党首がPESの副党首に【15日】

ファオン・社会民主党(SD)党首は、ベルリンで開催された欧州社会党(PES)の大会で副党首に選出された。党首にはローベン・スウェーデン元首相が選ばれた。ファオンSD党首はSTAに対し、PESは新党首のもとで欧州における社会民主主義の再生の時代を迎え、自らの就任について、SDの代表がPESの上級ポストに任命されたのは初めてのことだと述べた。

●大統領選挙【3日、23日、27日、28日】

3日、音楽家のベゼンシェク氏は、同氏を標的とした圧力、憎悪のメッセージ、脅迫を理由に大統領選挙への立候補を辞退した。

23日、大統領選の第一回投票でロガル民主党(SDS)議員(前外相)が33.96%の得票率を獲得、ピルツ＝ムサル弁護士は26.87%を獲得し、同2名が11月13日の第二回投票に進むこととなった。投票率は51.06%(23日10:15時時点)を超え、2017年の前回大統領選挙を約7%上回った。

同日、ゴロブ首相は、新大統領は国際舞台でのパホル現大統領の職務を継続すべきだが、国内ではより積極的になり、「道徳的権威」を持つべきだと述べた。

27日、新スロベニア党(NSi)は、公認候補ツィグレル・クラル氏が大統領選挙の決選投票に進めなかったため、第2ラウンドではロガル前大臣を支持することを決定した。ロガル候補は、両野党と非議会政党の人民党(SLS)の支持を得ている。

28日、SDは、ブルグalez候補が敗れたため、第2ラウンドではピルツ＝ムサル候補を支持することを決定した。

●国民議会各党が一定の憲法改正に合意【24日】

ゴロブ首相が主催し、国民議会の全5政党の党首と議会グループが参加した第1回会談で、各議会政党は憲法改正と選挙法改正の可能性について議論した。その結果、いくつかの変更点について合意する

ことができ、変更点は数段階に分けて導入されるべきであると合意された。ゴロブ首相は、協議の結果、特に憲法裁判所や裁判官の任命(に関する変更)などは、6カ月以内に可決される可能性もあると述べた。

●公共部門の給与引上げ法が可決【25日】

国民議会は、政府が関連労働組合と合意した、ほとんどの公共部門職員の給与を9%近く引き上げる公共部門給与法の改正を可決・成立させた。推定6億1,100万ユーロに相当するこの法案は、連立与党左派党の反対にもかかわらず可決された。10月1日からすべての賃金区分の値が4.5%引き上げられる。2023年4月1日には、昨年昇給しなかった従業員の給与が1段階上昇する。

●政府への支持率、50%超を維持【25日】

世論調査で、政権支持率は5ポイント下がったが、未だ50%以上を維持している。国民議会の活動は48%の回答者に支持されている。自由運動党(GS)の支持率は30%(9月から0.9ポイント低下)、次いで野党民主党(SDS)が18%(横ばい)。

【外政等】

●ボクサー契約解除は「危険な決断」【1日】

スロベニア軍の最高司令官であるパホル大統領は、政府がボクサーAPCの契約を取り消したことは、説得力のある代替案を提示しなかったこともあり、危険な決断であると述べた。パホル大統領は、ウクライナ戦争を挙げ、現在の世界とスロベニア近隣の政治、経済、安全保障の状況は憂慮すべきものであると警告した。また、集団防衛の責任をNATOの他の同盟国に転嫁するのではなく、自国の国家安全保障システムを通じて自国の安全を確保するよう促した。

●ウクライナ地方併合でロシア大使を召喚【3日】

外務省は、ウクライナのドネツク州、ルハンスク州、ヘルソン州、ザポリヅジャ州のロシアによる違法な併合を非難するため、EU外交当局で歩調を合わせた行動として、駐スロベニア露大使を召喚した。外務省は同大使に、ロシアによる4地域の併合を認めず、「ウクライナの主権と領土の一体性、国連憲章に対する重大な違反である」と指摘した。また、ロシアに対し、併合を直ちに中止し、ウクライナの全領土から軍と武器を撤退させるよう要請した。

●パピッチ教育・科学・スポーツ大臣の訪日【3日】

パピッチ教育・科学・スポーツ大臣は9月29日～10月3日に日本への実務訪問を行った。日本の小林鷹之科学技術担当内閣府特命担当大臣及び小宮山宏STSフォーラム理事長の招待を受け、同大臣は、科学技術の発展が社会の発展に与える影響に関する現在の諸問題に対処する世界最大の会議の1つに参加した。パピッチ大臣は訪日中、筑波大学や高エネルギー加速器研究機構(KEK)を訪問した。10月1日には京都における日EU科学フォーラムに参加した。大臣は、大学レベルや研究機関を含む様々な分野やプロジェクトにおける日本とスロベニアとの素晴らしい協力を歓迎した。また、スロベニアでスマート電力ネットワークを確立することを目標とするNEDOプロジェクトについて強調し、またその観点から、日本のイニシアティブであるSociety 5.0の重要性を強調した。京都で開催されたSTSフォーラムの枠組みの中で、パピッチ大臣は、科学を担当する閣僚のラウンドテーブルに参加し、基礎科学と応用化学のバランスの重要性について述べた。

訪日日程の一環として、パピッチ大臣はマリヤ・ガブリエル・イノベーション・研究・文化・教育・青少年担当欧州委員、永岡桂子文部科学大臣、更にマリア・レプティン欧州研究会議議長と会談した。パピッチ大臣は、石塚博昭NEDO理事長との会談で訪日を締めくくった。

●ウクライナのNATO加盟申請の受け止め【4日】

4日、ファヨン外相は、ヴィタニェ市で開催した「ビジネス・トゥ・ディプロマシー」イベントにおいて、スロベニアはウクライナのNATO加盟について、安全保障上のリスクが大きいため留保しており、NATOがウクライナを加盟させる決定を下した場合、それは明確な開戦宣言となる可能性があるとして述べた。ウクライナのNATO加盟要請に対するスロベニアの支援については、スロベニアは人道的、開発的、軍事的援助の形でウクライナを可能な限り支援しており、それはウクライナが支援を必要とする限り継続すると述べた。ウクライナのNATO加盟問題についてスロベニアで協議が行われているかとの点については、先週ポーランドがイニシアティブをとったウクライナのNATO加盟を間接的に支持する声明にスロベニアは参加しなかったと述べた。

●スロベニア・ウクライナ首脳会談【6日】

ゴロブ首相とウクライナのシュミハリ・ウクライナ首相は、欧州政治共同体の初会合前に会談し、ロシアによるウクライナ領土の併合により、世界が転換期を迎えているとの認識で一致した。両首相はウクライナのNATO加盟申請に関して、正しい道と正しい瞬間を見つけなければならないとし、ロシアに対してこれまで中立的又同情的だった一部の国々でさえ、ロシアによる侵攻は国際社会の構造を不可逆的に変えつつあると認識するきっかけになる可能性がある旨指摘した。

●パホル大統領、ブドバで地域協力を呼びかけ【8日】

パホル大統領は、モンテネグロのブドバで開催された政治・安全保障会議「To Be Secure Forum」に参加し、西バルカン地域における協力が、同地域の分裂を終わらせ、全体としてEUの一部とする唯一の方法であると訴えた。また、西バルカン地域の平和と安全が脆弱であることを指摘し、EUに拡大プロセスの加速を改めて呼びかけた。パホル大統領はまた、ジュカノビッチ・モンテネグロ大統領と会談した。

●ハーン経済相のハンガリー訪問【11日】

ハーン経済開発・技術大臣は、ハンガリー市場におけるスロベニア企業のプレゼンス向上等、更なる経済関係の強化について協議するためブダペストを訪問した。同大臣は、ハンガリーのシーヤールトー外務貿易大臣と会談し、エネルギー危機と二国間の経済関係強化について協議した。また、インドテックファンドの代表者と会談し、ロシアの銀行ズベルバンクが保有するクロアチアのフォルテノヴァグループ(スロベニアのメルカトルグループの所有者)の株式44%の買収について議論した。

●BHへのEU加盟候補国地位付与への反応【12日】

スロベニア政府関係者は、欧州委員会がボスニア・ヘルツェゴビナに対し、スロベニアが長年主張してきたEU加盟候補国としての地位付与を勧告する決定を下したことを歓迎した。パホル大統領は2月に同国を無条件で加盟させるべきとの考えを示したが、これは西バルカンの平和と安定にとって重要な動きであるとした。ゴロブ首相は、スロベニアは、今後西バルカン諸国全体がEUに加盟できるよう努力すると述べた。ファヨン外相は、欧州委員会の決定がボスニア・ヘルツェゴビナの改革努力の推進力となることを期待しているとした。

●インドと移住・労働虐待について協議【12日】

ヘフェルレ内務副大臣は、駐スロベニア・インド大使と会談し、インドからスロベニアへの不法移民とインド人労働者の権利侵害について議論した。インド人は、1月から9月にかけてスロベニア国境警察に逮捕された不法移民の10分の1以上を占めた。移民は合法的に西バルカン諸国に入国し、その後EUに入域している。

●独大統領へスロベニア最高勲章を授与【13日】

13日、パホル大統領はドイツを訪問し、シュタインマイヤー独大統領と会談し、スロベニアとドイツの包括的な関係の深化における個人的な功績に対して、スロベニアの最高国家勲章である「非常に優れた功績に対する勲章(Red za izredne zasluge)」を授与した。会談では、二国間の政治・経済協力の強化に加え、現在の欧州および国際問題、特にロシアによるウクライナ侵攻、エネルギー安全保障、気候危機、EUの西バルカン地域への拡大等が協議された。

●NATO国防相会合及びスロベニア・ドイツ国防相会談【13日】

13日、NATO加盟国の国防大臣は、2024年までにGDPの2%を国防費に、そのうち20%を投資に充てるという同盟国の公約の実現について議論した。スロベニアは、この2つの目標に対してまだ遅れをとっており、スロベニア国民議会で議論されている2024年の予算案ではGDPの1.44%を見込んでいる。シャレット国防大臣は、同数字を考慮すると、スロベニアはまだ2%にはほど遠いが、国防費の増加は不可欠だと述べた。

同日、シャレット国防大臣はランブレヒト独国防大臣と会談し、軍事装備、能力開発、国際的な作戦や任務における協力などスロベニア国防省と独国防省間の協力を強化する宣言に署名した。同文書は既存の協定をアップグレードしたもので、防衛と民生分野での協力の深化に道を開き、ウクライナにおける戦争に直面した状況への調整であると述べた。

さらに同日、スロベニアは、欧州共通の防空システムを構築するドイツの「欧州スカイシールド・イニシアティブ」に参加した。参加15カ国(スロベニア、ドイツ、英国、スロバキア、ノルウェー、ラトビア、ハンガリー、ブルガリア、ベルギー、チェコ、フィンランド、リトアニア、オランダ、ルーマニア及びエストニア)は、現在のNATOの欧州防空システムのギャップを埋めることを目的としている。シャレット国防相は、スロベニアは、自国の領空を守る必要があり、時代遅れの技術を持っていたため、同イニシアティブに参加することを決定したと述べた。また、バルト海のノルドストリーム・パイプラインの妨害行為を例に出し、特に重要なインフラの安全性を確保するためには、領空の保護を改善する必要があるとした。同相は、参加国は本日署名を行ったばかりであり、現時点でスロベニアがどのようなシステムを購入することができるか、可能なコストや防空システムの運用開始時期などの詳細について議論することは困難であると述べた。

両国はまた、ウクライナ支援のために協力している。ゴロブ首相とショルツ独首相は9月中旬に軍用車両の交換に合意しており、シャレット国防相は、同13日、スロベニアは10月末までにM55S戦車28台をウクライナに納入すると発表した。見返りとして、スロベニアはドイツの輸送車両40台を受け取る。

●ファヨン外相の北マケドニア訪問【18日】

ファヨン外相は、スコピエを訪問し、EUとの加盟交渉開始に祝意を表し、北マケドニアの加盟プロセスに対するスロベニアの支援を約束した。ファヨン外相は、オスマニ大統領との共同記者会見において、北マケドニアが2030年までに本格的なEU加盟国となることを支持する旨述べた。

●ファヨン外相のベルリン・プロセス会合出席【21日】

ファヨン外相は、エネルギー安全保障、グリーンアジェンダ、地域共通市場に関するベルリン・プロセス外相会合に出席した。ファヨン外相は、ボスニア・ヘルツェゴビナにEU加盟候補国の地位を与えるという最近の欧州委員会の提案を改めて歓迎し、その実施を求め、新たな(EU)拡大手法は信頼と結果に基づくものでなければならないと強調した。ファヨン外相はまた、トゥルコビッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ外相及びゲルヴァラ・コソボ外相と会合した。

●国際捕鯨委員会第68回総会【21日】

17日から21日まで、ポルトロージュにて第68回国際捕鯨委員会(IWC)総会が行われた。各加盟国は、20日、プラスチック汚染を減らすための決議を全会一致で可決したが、南大西洋の鯨類保護区(サンクチュアリ)の設置に関する採決については、捕鯨容認国のボイコットにより阻止された。

中南米諸国は、南大西洋で捕鯨を禁止するサンクチュアリを創設することを提案した。反対する一部の国の代表者は会期中に退席し、残ったメンバーは定数数の点で合意できず採決に至らなかった。IWCはまた、商業捕鯨の国際的モラトリアムの解除を求める国々からの2つの提案についても採決を行うことができなかった。中南米諸国は捕鯨容認国の無礼な振る舞いに落胆したと動物愛護団体は述べた。

スロベニアはサンクチュアリ創設に賛成しているが、ブレジャン環境相は17日、決議案採択の見通しは良くないと述べていた。

●アルジェリア国民議会議長のスロベニア訪問【24日、25日】

24日、クラコチャル＝ズパンチッチ議長は、リュブリャナでスロベニア訪問中のアルジェリア国民議会ブガリ議長を迎え、両国の協力関係、特に経済分野での協力をより緊密にすることを望むと表明した。ブガリ議長は、エネルギー分野だけでなく、人工知能、スタートアップ、教育、観光など、他の分野でもさらに関係を強化したいと述べた。ブガリ議長はパホル大統領とも会談した。

25日、ゴロブ首相は、ブガリ議長と会談し、エネルギー協力及び歴史的友好を共有する二国間の協力の開始について協議した。ゴロブ首相は、スロベニアは全ての分野において二国間協力を強化する準備ができていると述べ、前政権は地中海の戦略的重要性、特にアルジェリアからの天然ガスの長期的供給の可能性を無視してきたが、今般戦略的パートナーシップの再建という合意に至り、ガス供給業者ゲオプリンは、アルジェリアのガス供給会社Sonatrachとの短期・中期・長期的同盟を結ぶことに強い関心を示している。ゴロブ首相は、スロベニアがアルジェリアに大使館を設立することも計画しており、おそらく来年に同国を訪問する予定であると明らかにし、国連安全保障理事会加盟に向けた相互支援と経済協力の緊密化について議論した。ブガリ議長は、予定されているエネルギー協力協定は、両国の包括的關係に新たな推進力を与えると確信していると述べた。将来的には、アルジェリアは、デジタル化、AI、新テクノロジー及び再生エネルギー等の他の分野にも協力を広げたいと考えており、スロベニアはそれら分野の知識の蓄積と可能性を有しているため、アルジェリア側とウィンウィンの関係を築けるだろうとした。

●ズパンチッチ議長、クリミア・プラットフォーム・サミットに出席【25日】

ズパンチッチ国民議会議長は、ザグレブで開催されたクリミア・プラットフォームの第1回議会サミットに出席し、ウクライナは欧州その他すべての民主主義国家のために犠牲を払っていることを認識する必要

があると述べた。ロシアの侵略に対するEUの対応を「真のリーダーシップの発揮」と捉え、「侵略に対する一致した対応は多くの人々を驚かせた」とも述べた。

●英新首相に祝意【25日】

ゴロブ首相は、スナク英国新首相に祝意を表し、両国の協力関係の継続を望むと述べた。両国は「友人であり同盟国であり、共通の価値観を守り、大陸の安全のために協力し続けることを楽しみにしている」とツイッターで述べた。

●ロシアの汚い爆弾のツイートに反論【26日】

25日、スロベニア政府は、ロシア外務省がウクライナがいわゆる汚い爆弾の使用を準備しているという警告とともにスロベニアの写真を取り上げたツイートに対し、スロベニアの放射性廃棄物は安全に保管され、監督下にあり、汚い爆弾には使われていないと強調し、反論を行った。ロシア外務省が使用した写真は、2010年に撮影されたもので、放射性廃棄物庁(ARAO)の所有物である。

●クロアチアのシェンゲン協定加盟について【26日、27日】

26日、政府は、クロアチアのシェンゲン協定加盟を「原則的に支持する」、「ヨーロッパ共通の利益になる」と述べた。これに先立ちデロ紙は、政府が、クロアチアのシェンゲン協定加盟はクロアチアがスロベニアとの国境に関する仲裁裁判所の裁定を承認することを意味するという単独声明を起草している旨報じた。クロアチアのプレンコヴィッチ首相は、デロ紙の報道に対し、クロアチアはシェンゲン圏に入るための必要条件をすべて満たしており、「スロベニアはもちろん独自の声明を出すことができるが、我々もそうすることができる。シェンゲン加盟はクロアチアに何らかの義務を負わせるものではない」と述べた。

27日、ゴロブ首相は、クロアチアのシェンゲン圏への加盟はスロベニアの利益になると繰り返し述べた一方で、ニュース番組でのインタビューで、国境仲裁裁定は「完了した行動」だと述べた。スロベニアが、クロアチアが仲裁裁定を認めたと宣言する声明を採択する可能性について問われ、国益を守るのはすべての政府の仕事であり、決定は議会で行われると答えた。

●ファヨン外相のEU-CELAC閣僚会合出席【27日】

27日、ファヨン外相は、EUとラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体(CELAC)の第3回外相会合に出席し、平和と持続可能な開発を強化するための新たなパートナーシップと協力の役割を強調した。また、チリ、コスタリカ、パナマ、パラグアイの各外相と二国間会談を行い、政務協議に関する覚書に署名した。

31日、ファヨン外相は、アルゼンチンでカフィエロ外相と会談し、二国間協力および国際機関の枠組みにおける協力の強化に向けた努力を約束し、経済協力とワーキングホリデーに関する協定に署名した。また、スロベニア人コミュニティの代表者等とも会談した。

●ブラジル大統領選挙結果への祝意【31日】

パホル大統領は、ブラジル大統領選挙でのルーラ元大統領の勝利に祝辞を述べ、良好な二国間協力を継続することを望むと表明した。ゴロブ首相も同氏を祝い「スロベニアとブラジルの二国間関係を強化し、環境保護など国際社会の主要課題に直面する上で一緒に働くことを楽しみにしている」と投稿した。

経済

【エネルギー関連】

●エネルギー企業に対する国の影響力【1日、6日】

1日、クメル・インフラ大臣は、戦略的エネルギー企業に対する国の影響力を高めたいが、所有権を通じてか或いは経営を通じてかはまだ分らないと述べた。ゴロブ首相はエネルギー企業の国有化が近い可能性がある旨述べていた。クメル大臣は、ガス販売会社ゲオプリンに対する発言力を高めたいと考えており、約3分の1を保有しているエネルギー会社ペトルルへの出資比率を高めることも悪くないと述べた。また、エネルギーやインフラの重要な企業は、国が所有しない、あるいは所有率が低いようなことがあってはならないとした。

6日、政府は、スロベニア・ソブリン・ホールディング（SSH）に対し、ゲオプリン社の状況を分析し、ガスの安定供給を確保するための活動を提案するよう命じた。これには、2億ユーロ以上の増資による事実上の国有化も含まれる。ポシュトヤンツッチ財務大臣は、最終的な決定は、同社が近々開催する年次総会で行われ、国家補助の規則に抵触しないよう欧州委員会に通知されると述べた。

●GENエネルギー社長の退任【11日】

電力会社GENエネルギーのブラジュ・コシヨロク社長は、就任から半年後の11月15日に退任する予定であることが明らかになった。ヤンシャ政権時の副大臣で、4月に現職に任命されたコシヨロク社長は、エネルギー市場の不確実性と変化の速さのために、任務は困難であったと述べている。

●政府、エネルギー手当計算のためのウェブツールを発表【11日】

労働・家族・社会問題・機会均等省は、世帯や個人が一回限りのエネルギーコスト援助金の支払いを受ける資格があるかどうかを計算するためのウェブツールを立ち上げた。メセツ同省大臣は記者会見において、スロベニアで最も貧しい約6万世帯を対象していると述べた。この措置は、1人当たり200ユーロのエネルギーコスト手当として、約63,000世帯、103,000人と7,400人の障害者を支援しようとするものである。

●ゴロブ首相のEU首脳会合出席及び天然ガス価格制限【20日、25日】

20日、ゴロブ首相は、EU加盟国の首脳が天然ガスの価格を制限することで合意した協議は、大きな前進であると述べた。また、同首相は、スロベニアにとって同合意は、企業支援のために割り当てなければならない予算が減ることを意味すると述べた。

25日、EUエネルギー担当閣僚会議に出席したクメル・インフラ相は、天然ガス価格の抑制策を議論し、EU首脳が先週合意した出発点を軟化させないように警告した。また、スロベニアは長期契約に基づくガス購入にも価格上限を設けることを提唱している。また、スロベニアは、化石燃料プロジェクトを含む外国のエネルギー投資を保護するための協定であるエネルギー憲章条約から脱退する可能性があるとも発表した。同条約はもはやその目的を果たしていないというのがその理由である。

●農民向け燃料の物品税法改正が可決【25日】

国民議会は、農民、林業家、養蜂家向けに安価な新しい燃料の「農業用ディーゼル」を導入し、現行の物品税の償還制度に代わる物品税法の改正を全会一致で可決した。農家、林家、養蜂家は、燃料にかかる物品税が76%低くなる。

●暖房価格の上限設定【27日】

政府は、天然ガスを燃料とする地域暖房の価格に上限を設定し、プロバイダーが1月1日以降に検討している値上げを防止することを決定した。この変更は11月1日に適用される。クメル・インフラ相は、「もし私たちが規制に介入しなければ、請求額はかなり高くなるだろう」と述べた。同時に、価格規制の対象が拡大され、幼稚園、ヘルスケアセンター、小学校が価格規制を受ける事業者に含まれるようになった。

●年金の早期引き上げ、ケアホームの費用に上限を設定【27日】

政府は、4.5%の年金定期積増を2月から11月に前倒しする緊急法案を採択した。この法案はまた、高齢者介護施設の料金の上昇を4.5%に抑え、介護施設の賃金や電気代、暖房費について国が支援できるようにするもの。ゴロブ首相は、この法案の目的は、生活費に苦しむ年金生活者を助けることと、介護施設の費用負担が耐えられないものにならないようにすることの2点であると述べた。

【その他】

●8月の輸出入は大きく増加【5日】

スロベニア統計局によれば、8月の物の輸出額は41.9億ユーロに上り、前年同月比で52%増となった。輸入は44%増で47.1億ユーロであった。5.18億ユーロの輸入超となっている。

●IMF、スロベニアの成長率予測を修正【11日】

IMFは、最新の世界経済の見通しでスロベニアに関する予測を修正した。本年のGDPは5.7%増と、4月の数値から2ポイント上方修正され、2023年のスロベニアの経済成長率の予測は1.3ポイント下方

修正され1.7%となる見通し。また本年のインフレ率は9%近くとなる。

●ムーディーズ、スロベニアの格付けを据置き【22日】

21日、格付け会社ムーディーズは、スロベニアの信用格付けを安定的な見通しでA3に据え置いたと、財務省が発表しました。スロベニアは2020年10月以来、ムーディーズのA3の安定的見通しの格付けを享受している。

●日スロベニア・ビジネスフォーラム【26日】

スロベニア投資促進庁(SPIRIT)と日本のJETROが主催する日スロベニア・ビジネスフォーラムにおいて、日本とスロベニアのビジネス・投資環境、協力の機会、スマートシティ、モビリティ、ロボティクスにおけるベストプラクティス事例が議題に上った。SPIRITのツァプル長官代行は、ソサエティ5.0というコンセプトは日本で考案され、今や社会発展の指針の一つになっていると述べた。

●リュブリャナ空港の旅客数【27日】

空港運営会社フラポート・スロベニアは、リュブリャナ空港の旅客数が流行前の水準に戻ったと発表し、12の航空会社が14都市に就航する冬期スケジュールを発表した。第1～3四半期の旅客数は前年同期比174%増となった。

●年間インフレ率が10%を下回る【28日】

10月の年間インフレ率は、消費者物価が前月比0.8%上昇し、5月以来に10%を下回る9.9%(前月より0.1ポイント低下)となった。食品とエネルギー価格の上昇が引き続き年間インフレ率を牽引しているが、統計局の数字によると、月単位の上昇は主に食品価格の上昇と衣類の季節的な価格高騰によるものであった。EU全体の指標である消費者物価指数では、スロベニアのインフレ率は10月、年率(同月比)で10.3%となる。

●9月の調査失業率は4.1%で横ばい【28日】

9月の調査失業率は4.1%で、前月と比べ横ばいだが、2021年9月から半減している。9月に15～74歳の約4万2千人が職を失い、女性と男性がそれぞれその半分を占めたと推定している。

治安

●傷害事件【1日】

9月30日深夜、マリボル市内で未成年者が同級生を鋭利なもので攻撃し重傷を負わせた。犯人の少年は、マリボルの公園で10代の女性をナイフで少なくとも7回刺したとのこと。被害女性はナイトクラブに避難し、警備員が呼んだ救急車で病院に運ばれたが、内臓、顔、背中に傷を負った。

●窃盗事件【16日】

16日夜、警察がクラン地区の集合住宅に侵入した男を逮捕した。犯人が所持していた現金の入手先について説明を拒んでいるため、警察は、同地区の他の住居や車から盗んだ可能性があるとして潜在的な被害者からの通報を呼びかけている。

●強盗事件【18日】

17日夜、リュブリャナ中心部で、3人組の男が男性に近づき、高価な服を脱いで渡すよう強要して奪った。被害は約2,700ユーロ相当とのこと。

●強盗事件【26日】

25日夜、マスク姿の男2人が、シェンペテル・プリ・ゴリツァ中心部の宿泊施設に侵入し、受付の従業員を銃で脅して現金を要求し、現金数百ユーロを奪って現場から逃走した。犯人は年齢30歳前後、身長180センチくらいで外国語を話していたとのこと。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●モホリッチ選手、ツアー・オブ・クロアチアで優勝【2日】

自転車競技のマテイ・モホリッチ選手がツアー・オブ・クロアチアで優勝、ツール・ド・フランス王者のヨナス・ヴィンゲゴールに1秒差をつけて2018年以降のマルチデーレースにおける初優勝を飾った。

●アートニック選手、フリーダイビング世界王者に【6日】

フリーダイバー、アレンカ・アートニック選手が、モノフィンのコンスタントウェイト種目で世界選手権のタイトルを保持した。3日にトルコで開催された世界選手権で116メートルの深さに到達し、世界チャンピオンの座を維持。2021年7月には122メートルまで降下することに成功している。

●ポガチャル選手、II Lombardiaで優勝【8日】

自転車競技のタデイ・ポガチャル選手は、サイクリングシーズンの5つのワンデーレースのうち、最後のII Lombardiaで優勝、昨年の王者の座を守り、2年連続でUCIワールドランキングのトップに立った。

●ログリッチ選手に勲章が授与される【10日】

自転車競技のプリモジュ・ログリッチ選手に、パホル大統領から、世界のスポーツ界でスロベニア代表として成功を収め、その人柄を称える勲章が授与された。スロベニア人サイクリストとして初めてツール・ド・フランスで一位となり、オリンピックで金メダルを獲得した。この栄誉を受けたのは最近のレース中のクラッシュにより肩の手術を受ける数時間前だったという。

●ジャン・クラニェツ、2位でシーズンをスタート【22日】

スキーマーのジャン・クラニェツ選手は、今シーズン開幕戦の大回転で、昨年のワールドカップ総合優勝者であるスイスのマルコ・オーダーマットに次ぐ2位に入賞。29歳の選手にとって、9回目のワールドカップ表彰台。

●体操界の巨匠ツェラル氏の記念碑が立てられた【28日】

30個のメダルを獲得した元体操選手のミロスラウ・ツェラル氏の83歳の誕生日にあたり、故郷グロスプリェに記念像がたてられ、除幕式が行われた。オリンピックで2つの金メダルと銅メダルを獲得し、5度の世界チャンピオンに輝いたツェラル氏は、お気に入りの器具である鞍馬に乗った銅像でその栄誉を称えられた。

●70周年を迎えたスロベニア柔道連盟、勲章を授与される【29日】

28日、スロベニア柔道連盟70周年記念祝賀会場で、パホル大統領は、柔道家のティナ・トレステニャク選手とスロベニア柔道連盟に国家勲章を授与した。スロベニア柔道連盟は、柔道の発展への多大な貢献と所属するスロベニア柔道選手の国際的な活躍に対して功労勲章を授与された。トレステニャク選手は、傑出したスポーツの業績と、国際的なスポーツの舞台でスロベニアを宣伝し、人々にインスピレーションを与えたことで金勲章を授与された。当日国外での事業に従事していた柔道家のウルシュカ・ジョルニル選手にも、11月、金勲位が授与される予定。

【生活・科学技術・その他】

●第三次教育修了者の割合が欧州平均を上回る【4日】

スロベニアにおける高等教育修了者の割合が欧州平均を上回っていることが、経済協力開発機構(OECD)による2022年の「一目でわかる教育」(OECD 38カ国および多数のパートナー国の教育制度に関するデータを提供する最新の指標)で示された。スロベニアでは、大学生の38%がプログラムに定められた期間内に卒業している。OECD加盟国では、この数字は12%から69%の間とのこと。教育レベルによる雇用については、スロベニアでは、初等教育までを受けた女性の雇用率は41%であったのに対し、高等教育を受けた女性では87%にまで上がっていた。男性の場合は、それぞれ68%、90%であった。学士課程を修了してから3年後の卒業率は56%で、OECD平均の68%と比べても高く、女性の方が高等教育を修了する確率も高かった。

●トリグラウ山の頂上が5Gでカバーされる【7日】

通信事業者のA1スロベニアは、スロベニアで最も高い場所にある5G基地局でモバイルネットワークを拡張し、より広いクレダリツァ高原エリアとスロベニア最高峰のトリグラウ(2865メートル)頂上で5Gアクセスを可能にしたと発表した。海拔2514メートルに位置するこの基地局は、ソーラーパネル、風力エネルギー、発電機で駆動しているという。

●ジャレツ給水システムでノロウイルスが検出【9日】

10月初めから、ジャレツ給水システムの健康被害が続いており、これまでに約100名の地元住民が消化器系の問題で医療機関を受診。糞便細菌が検出された問題に続き、給水システムから新たにノロウイルスを検出した。水を沸騰させる措置が引き続き実施されると、ジャレツ公益事業団は述べている。

●生涯功労IT賞の授与【15日】

ヨジェフ・ステファン研究所(IJS)の前所長で、ロボット工学の研究で著名なヤドラン・レナルチッチ氏が、情報社会、コンピュータ科学、情報科学に関する国際会議「第25回IS 2022」において、コンピュータ科学分野のライフタイム・アチーブメント賞を受賞した。電気工学の博士号を持つレナルチッチ氏(67歳)は、ロボット工学、ロボット運動学、バイオロボティクス、人型ロボティクスの分野で幅広い研究を行っている。

●道路横断支援ロボットを試験的に導入【15日】

歩行者がより安全に道路を横断できるように設計されたロボットIPA2Xが、14日、リュブリャナでデビューを果たした。IPA2Xは、スマートセンサーを搭載した移動式ストップライト。歩行者が道路を渡っても安全なタイミングを判断し、ゼブラゾーンに乗り入れ、対向車に停止信号を送り、歩行者に横断するよう合図を送る。このロボットは、信号のない横断歩道用に設計されており、特に高齢者や子ども、運動機能障害者を支援することを目的としている。

●スロベニアで女性の起業家精神が高まる【20日】

スロベニアでは、女性の起業家精神がますます重要性を増しており、4年連続で女性の起業活動が増加していることが、グローバル・アントレプレナーシップ・モニターのデータで明らかになった。10年前、スロベニアの女性起業家の数は最悪だったが、現在はEUの平均を上回っている。

●スロベニアの子どもたちは依然として健康的だが、身体活動の減少が顕著【24日】

リュブリャナ市スポーツ学部のSLOfitグループが57カ国を比較研究した報告書により、スロベニアの子どもたちの運動量は世界中のほとんどの仲間よりも良い状態を維持しているが、その差は小さくなっていることが判明した。スロベニアが、子どもや若者の身体パフォーマンスの低さに悩む国の方向へと向かっていることを示しているとのこと。SLOfitではパンデミック前、中、後の期間のデータを見ることができ、ロックダウンの結果、身体活動が急激に減少したことを立証した。スロベニアは、フィンランドと並び、身体活動カテゴリー全体でA-を獲得した唯一の国である。

●数学者のカルスト水路プロジェクトがERCシナジー助成金を獲得【25日】

リュブリャナ数学学部のボヤン・モハール教授が、スロベニア人研究者として初めて、欧州研究会議(ERC)のグラントを獲得した。教授は、カルスト水路の力学と、洪水や干ばつなどの極限状況における現象の発生を研究する国際チームの一員となる予定。ERCは、モハール教授のカルストプロジェクトに990万ユーロを授与した。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281又は8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp
Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。http://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

【領事班からのお知らせ】

●新型コロナウイルス感染症に係る水際対策の見直しが決まり、10月11日(日本時間午前0時)以降、短期滞在査証の査証免除措置の適用が再開され、パッケージツアー以外の観光客も入国可能となるなど、措置の内容に大きな変更があります。詳細は、当館ホームページの以下のリンク先をご確認ください。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00695.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届の提出は、オンライン在留届(ORRネット)が便利ですので、ぜひご利用ください。なお、過去に書面で在留届をご提出されている方でも、当館窓口においてお手続きいただくことで、オンライン在留届への切替が可能です。切替をご希望の方は、当館領事警備班までお問合せください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに約2~3か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご利用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語):<https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語):<https://twitter.com/vladars>

(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省:<https://twitter.com/mzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省:<https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●藤間蘭黄先生の解説付公演を開催します！

11月から中東欧地域を中心に公演ツアーをされる藤間蘭黄先生が、マリボルにもいらっしゃいます。舞踏評論家の桜井多佳子先生の解説付きの公演を実施します(日本語・スロベニア語通訳)ので是非足をお運びください。入場無料です。

○日時: 11月21日(月)19時半開演

○会場: マリボル国立劇場(Narodni dom Maribor)Ulica kneza Koclja 9, 2000 Maribor

●スロベニア語字幕付Japan Video Topics配信中

当館YouTubeチャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介するJapan Video Topicsのスロベニア語字幕版(英語音声)を配信しております。

[Embassy of Japan in Slovenia - YouTube](#)

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>